

BROADCAST CREATORS ASSOCIATION OF JAPAN

放送人の会

No.70

2015.5.29

〒102-0094 千代田区紀尾井町1-1 千代田放送会館 3階 Tel & fax 03-3221-0019 Mail info@hosojin.com

発行 一般社団法人・放送人の会 会長 今野勉 編集担当 伊藤雅浩 (広報委員長・編集長)、鈴木典之、逸見京子、前川英樹 (HP担当)、松尾羊一 事務局 佐藤真美子、須斎恵美子



3列目左から

古立善之 (NTV) 伊藤南隆 (山形放送) 伊藤和幸 (山形放送) 堀川とんこう (放送人の会・選考委員長)

2列目左から

野村彰人 (NHK) 星野敏子 (NHK) 訓囃主 (NHK) 塚原あゆ子 (ドワンゴ) 八木康夫 (TBS) 天野燦 (TBS)

1列目左から

杉浦正明 (エンタープライズ) 小柳ちひろ (テムジン) 西野哲史 (TBS) 関口宏、金富隆 (TBS) 今野勉 (放送人の会・会長) 龍田耕一 (三社)

放送人グランプリ2015(第14回)受賞者一覽

◆グランプリ

「サンデーモーニング」

出演者とスタッフ

落ち着きと中庸を貫く長寿番組の輝きと存在感に。放送開始から28年にわたり、確かな制作理念を作り上げてきた出演者とスタッフの努力を讃えて。(TBS系列、毎日曜8時〜10時放送)

◆準グランプリ

「私たちのシベリア抑留」

小柳ちひろ

(NHK・BS1、2014年8月12日放送)。シベリア抑留者の中に、数百人の女性が含まれていたことを明らかにしたドキュメンタリー。戦後女性の自立の糧ともいえる女性群像をとらえた視点に。

◆企画賞(1)

日曜劇場「おやじの背中」

八木康夫

(TBS系、2014年7月〜9月(日)) 21・00〜21・54放送
「父と子」をテーマに、1話完

結ドラマを10人の作家と演出家、各俳優により10本並べるとい企画を実現させたプロデューサーとしての力量に。

◆企画賞(2)

「パリ白熱教室」

(NHK・Eテレ、2015年1月〜2月全6回、初回放送)。気鋭の経済学者トマ・ピケティによるテレビ連続講座。日本のピケティブームの一翼をになつた番組制作者の、時代をとらえる企画力に。

◆優秀賞(1)

YBCラジオスペシャル「花は咲けどもくある農村フォークグループの40年〜」

(山形放送、2014年5月31日放送)。福島からの避難者が多い山形県で、米農家のフォークグループ「影法師」が歌う『花は咲けども』に焦点をあてて、東北の人びとの気持ちをすくいあげた秀逸なラジオ・ドキュメンタリー。

◆優秀賞(2)

「世界の果てまでイッテQ!」

古立善之(ふるたち よしゆき)

(日本テレビ、制作局チーフディレクター)。紀行番組に笑いを融合させた「世界の果てまでイッテQ!」や「月曜から夜ふかし」など、人気番組を企画・演出、新しい人材を発掘するなど、幅広い世代に愛されるバラエティ番組への姿勢と成果に。

◆第1回大山勝美賞(1)

朝霧 圭(あさぎり けい)

(NHK、チーフプロデューサー)。ソフトで暖かい人当たりの良さと、鉄のように強い意志をもち、「ハゲタカ」「外事警察」「あまちゃん」などを作り上げた颯爽としたプロデューサーセンスに対して。

◆第1回大山勝美賞(2)

塚原あゆ子(つかはら あゆこ)

(朝ドラマックス、企画・演出、プロデューサー)。人間の多面性を、いねいに切り取り、ドラマに奥行きを与えるディレクター。「リミ

ット」今夜は心だけ抱いて」「Nのために」など、女性ならではの感性による繊細な演出に対して。

【選考経過】

堀川とんこう 選考委員会委員長



今年で放送人グランプリは第14回になります。年々、この賞の重みは増し、業界の中での認知度も高まっています。

受賞者の中には初めてで、この賞のことでよく知らない方もいらっしゃいますので、選考の仕方の説明を致します。

毎年2月に会員有志10人くらいが集まって「下馬評議談会」という座談会を行っています。これはテレビのウォッチャー、ラジオの聞き手が自分が見た番組、聞いた番組で印象に残った番組について勝手に語る会で、およそ250〜300くらいの番組が下馬評議談会で話題になります。これを文芸報の編集長が面白くまとめて会報に掲載しますので、会員はこの記事をもて参考にし、1年間の間に自分が見て印象に残った番組を思い出し、3月中に推薦投票をします。放送人グランプリの贈賞にはこれがいい、という投票です。この投票をもとに選考委員

が選考委員会で議論して決めます。

業界には大きな賞、歴史のある賞がいろいろありますが、多くの賞は応募形式で応募作品の中から受賞作を選ぶと言う形です。しかし放送人グランプリはいま申し上げた形の選考を経て、いわば放送人の会の独断と偏見で勝手に選んで、ある日突然お知らせするという形式をとっています。この「突然ある日お知らせする」という形式が案外評判がいいんです。他の賞では応募の書類にいろいろ面倒なことを書き込まなくてはならない。1年ほど前に作った番組のあらすじや企画意図をもう1回思い出して書かなくてはいけない。これはけっこう憂鬱になります。そして、応募したら結果が気になります。これもしんどいことですが、放送人グランプリにはいらいら、どきどきしながら結果を待つということがありません。もう一つ、応募形式では選に漏れて結果をみると「これに負けたのか」ということが受賞作品一覧をみるとわかる。放送人グランプリでは「何に負けたのか」、「何と争ったのか」はわからない。そんなよさもある。ある日突然、青天の霹靂のように受賞通知がくるのが評判がよく、14回続けてきました。

今年3月に会員の推薦投票が終わり、4月1日に選考委員会を開きました。正午から午後5時まで、5時間たっぷり議論して決まりました。そしてこうして今、ここに皆さんにお集まり願ったわけです。忙しいが受賞作の全番組の関係者の方がこ

出席くださいました。

選考委員会の模様をご説明します。

例年のように私が座長になって、まずグランプリについて検討を始めたのですが、候補にあがったのはTBSのドキュメンタリー「私の町も戦場だった」、NHK・E・TV特集「日本人は何を考えてきたのか、何をめざしてきたのか・知の巨人たち」などの大制作の候補について議論が始まろうとしたとき、「いや、ちょっと待った。今年のメディアの状況は例年と少し違っていないか」との発言がありました。

「ニュースステーション」でコメントーターの古賀さんが退任になる事件がありました。したが、政権からのマスメディアにたいする干渉、介入が非常に増えている。自民党の情報通信戦略調査会がNHKとテレビ朝日の幹部を呼びつけて申し入れをし、その際自民党は「BPOへの申し立てでもありうる」と発言した、とか。各局の取材キャップを呼んで申し入れ書を渡すとか。番組出演中の首相が街頭取材に対して「これはひどいじゃないですか」と叫んだ、とか。政権内部から政権与党から、マスメディア特にテレビに対して口出しが目立っている。それに対するテレビ局側の自衛、委縮が起きている。極端に言えば「これじゃ翼賛体制だ」と言う人もいます。いずれにしてもテレビジャーナリズムの状況は変わってきている。

そんな発言が選考委員会の中でありました。委員一同、同感です。そのことをグラ

ンプリに反映する方法はないものかと選考委員会の空気は動きました。そして議論した結果、今年のグランプリを「サンデーモーニング」に差し上げることになりました。このことに私たちの姿勢をこめ、思いを込めています。

個々の番組については後程選考委員が一人ずつ贈賞の理由を説明します。

ここで残念ながら賞は逸したけれど、選考委員の議論の中で、あるいは委員の投票の中で好評だったものを若干説明します。

TBSの「私の町も戦場だった」戦後70年、1000の証言、は艦載機のパイロットの頭につけたカメラで機銃掃射を撮影した大量の映像を使い、一部ドラマになっています。追真のドキュメンタリーです。「天才ポピー・フィンシャヤーの戦い」は天才チェスプレーヤーが米ソ冷戦に利用されて行く様を描いた娯楽性に富んだドキュメンタリーです。「ワルシャワ蜂起」華れた真実」はモノクロ映像をカラー化するNHKの技術が生かされた番組で、非常に迫力がありました。「ある日本映画史」は長閑裕之と津川雅彦の兄弟の確執を津川さんが正直に語っている番組です。先ほどちょっと言いましたが「戦後史証言プロジェクト」日本人は何を目指してきたのか、これは巨

大な番組です。

ドラマではTBS「ルーズベルトゲーム」、WOWOW「私という運命について」、テレビ東「永遠のO」、北海道テレビが作った「UBASUTE」、NHK広島の「語り部さん」

は被爆体験を語る被爆者が高齢になりそれを受け継ぐ人を広島市が募集し、それに応募した高校生の話、などがありました。

その他個人では元東北放送のキャスターで災害直後FM「リンゴラジオ」をたちあげ、頑張って続けてこられた高橋敏さん。亡くなったフリージャーナリストの後藤健さん。NC9のキャスター大越健介さん。などがあげられました。

以上が選考委員会で話題になり議論をした番組や人ですが、結果としては今日ここにお集まりの方々に賞を受け取っていただくことになりました。

今年から大山勝美賞が新設され、これは放送人グランプリの贈賞の一部門としてスタートしました。これについては石橋冠さんから：

「大山勝美賞について」 石橋冠氏



昨年11月大山勝美さんは亡くなりました。放送人の会の設立のときからのメンバーで、今野さんの前の2代目会長を務められ、非常に精力的に活躍なさり、なおかつ10年近い闘病生活を送り、それでも後進の指導など、頭の下がるほど放送のために尽くされました。その大山勝美さんがご逝去

の前に多額の寄付金を放送人の会にくださ
いました。感謝にたえないのですが、われ
われとしては大先輩大山勝美さんの名前を
長く刻んで行きたい思いから大山勝美賞を
新設しました。

グランプリとの差異をいろいろ考えまし
た。グランプリはオールラウンドにすべて
の番組を見まわして決まって行くのですが
大山さんはTBS時代から生涯ドラマを作
ってきた方なので、大山勝美賞はドラマの
制作者あるいは演出者に限定すると決めま
した。更に大山さんの遺志を受け継ぎ若い
人を励ましたい、と対象は60歳以下と決め
ました。作品一つだけで云々するのでなく、
日常のあるいは長いスタンスでの活動歴、
作品歴、あるいは多くの人の評判なども入
れ、その人への激励とこれからの期待を込
めようというコンセンサスを作り選びまし
た。

審査員は鶴橋康夫さん、西村五志木さん、
八木康夫さん、五十嵐文雄さん、堀川とん
こうさん、そして私とすべてドラマで育つ
たメンバーで構成しました。この6人でい
ろんな話をし、たくさんのお名前が挙がった
のですが、第1回の今日はお二人を顕彰し
ます。

NHKの調覇主さん、「あまちゃん」「ハ
ゲタカ」「外事警察」この前の「55歳から
のハローワーク」などいい作品でした。

もう一人は塚原あゆみさん。ドリマック
ス所属のプロデューサーです。「夜行観覧車」
「Nのために」「セカンド・ラブ」などを各局

からひっぱりだこで、女性ならではの素晴
らしい映像表現をみせてくれました。

「サンデーモーニング」

【贈賞理由】

鈴木典之氏



私は朝が遅い方ですが、日曜は8時前に
起きて「サンデーモーニング」を見ること
にしています。1週間のニュースを再チエ
ックし、ニュースハイライトの女性の手作
りの解説盤に感心し、スポーツニュースの
喝！と天晴れ！のユーモア裁定に笑い、頭
をリフレッシュするのが習慣です。

「サンデーモーニング」はどがいいの
か？まず第1に司会の関口宏さんの仕切り
のうまさ。おっとり構えて言葉数も少
ないにもかかわらず、実に巧みな手綱さば
きで、お人柄の深さもかがわれ、これぞ
看板芸だと感服しています。

もう一つは週替わりで多彩な論客が登場
します。この方たちは議論をしオピニオン
を言うのではなく、ニュースの読み方をそ
れぞれの専門領域で解説されます。これが
節度をわきまえた慎重な表現で、いやみな
く、耳を傾けることができます。

全体の番組の雰囲気を知性的サロン風な落

ち着きを漂わせ、安心して自分も勉強に参
加できる雰囲気があります。

リベラルな批評精神を中庸の程の良さで
表現するたしなみを皆さんが心得ていらつ
しやる。これがこの番組のポイントではな
いかと思います。

中庸は音楽ではモデラートですが、私は
小さい頃のおもちやのヤジロベエを思い出
します。ヤジロベエは両手を広げて片足立
ちでぐらぐらしても右にも左にも偏らず、
直立してまっすぐなバランスをとります。
決して倒れない。「サンデーモーニング」は
これを体現しています。

先ほど堀川委員長が触れましたが、政權
がとんちんかんな介入をして放送法が話題
になっています。放送法は中庸を守って自
立した番組を作ることを求め、言論表現の
自由を保障するものです。放送法を盾に政
権が介入するのはまこととんちんかんな
ことだと思います。放送ジャーナリズムは
権力におもねたり、ぐらついたり、浮足立
つたりしてはいけません。特に今がそんなと
きたと関係者の皆さんは承知だと思いま
す。「サンデーモーニング」はスタートから

28年、途中いろんな手直しをして今の形に
磨きあげられた長寿番組です。金ぴかの派
手さを狙うのでなく、いぶし銀の確かな底光
りを放つそんな存在であり続けて欲しいと
の願いを込めて選びました。

「サンデーモーニング」「やじろべえ」放
送法」と下手な三題噺になりましたが、つ
まり中庸の重視が受賞の理由だと私は理解

しています。

堀川 関口さんは別の席で「私は猛獣使
いだ」とおっしゃっています。確かに何匹か
の猛獣が好き勝手なこと、ときには相当過
激なことを言っているのに番組トータルと
してそんな印象を残していないのは、関口
さんが時にびしっ！びしっ！と鞭をふる
っているからだと思えます。

【受賞者挨拶】

関口 宏氏



身に余るお褒めの言葉をたくさんいただ
きました。ありがとうございます。

おっしゃったように長いことやっており
ますが、スタッフが非常に頑張っています
ので私はただ猛獣使いに徹しております。
気を付けないと噛みつかれるのです。(笑い)
なんとかそうならないように、いろいろ仕
掛けはあるのですが、やっていきます。

20数年前にこの番組が始まったときは、
私の印象では、テレビの情報報道系の番組
はやや左寄りの番組もやや右寄りの番組も
あって、なんとなくもわつと渡り鳥の群
れのように全体で飛んでいたと思います。
そんな時にこの番組が始まり、どうしよう
かいうときは「真ん中がいい」「真ん中で行
こう」というのが合言葉でした。「真ん中で

いれば目立たないから」と真ん中にいたのですが、この2、3年、気が付いてみると左側に誰もいない。私たちがばかりが左側にいるような感じですが、私たちはいつも真ん中にいるつもりでやっています。世の中が少しおかしくなったのでしょうか。

ここには放送人の先輩がたくさんいらっしゃいますので叱咤激励していただいて、皆さんが昔のように和気あいあいと自分たちの使命が果たせるような雰囲気を作っていたらいいと思います。今日はありがとうございます。

【受賞者挨拶】

西野哲史氏



このたびはこのような栄えある賞をいただき、ありがとうございます。今年のグランプリは選考過程の中で「サンデーモーニング」が突然浮上したと聞いております。贈賞理由の中の「メディアの変容が危惧される昨今」という言葉に贈賞理由が凝縮されているのだと思います。関口さんの挨拶にもありましたが、私たちの報道姿勢はずっと変わっておりません。社会の方がすれて目立つようになり、それでこのような賞をいただいたわけですが、世の中にとって大事なことを忠直に伝えて行くという姿勢

に変わりはありませんので、この賞を励みに一層頑張ってくださいと思います。本当にありがとうございます。

「女たちのシベリア抑留」

【贈賞理由】

藤久ミネ氏



私は疎開学童世代です。ですから戦中のことも戦後のことも覚えていて、特にシベリア抑留は非常に過酷なものであり、50万人をこえる多くの人が抑留されたと聞いていますが、その中に女性がいたということはこの番組をみるまで全く知りませんでした。しかも数百人の女性がいたということですね。主にソ満国境の従軍看護婦、満蒙開拓団の女性で、満州に進出した会社のタピストもいたそうです。証言者は80代、90代ですが、実に生き生きしておられて記憶が正しい。辛い体験を洗剤と語っておられた。綿密に調査し、いろんな方面から証言者を探してこられて、編集も見事で大変感心しました。

「戦後強くなったのは女と靴下」と言われ、私はそういわれた世代ですが、この番組の女性たちは抑留されていた間は非常に大変だったということがよくわかりました。

状況が読めなければどういう羽目に陥るかわからない。情報が正しいかどうかきちんと判断する力がなければならぬ。そしてなにより過酷な労働に耐える肉体の力も必要です。と同時に生きることに強い望みを持って生きてきた方たちだった。

戦後女は強くなったといわれますが、戦中にこんなに鍛えられたという人たちがあつたから女性はその中に出て行くことができたのだと思います。そんな意味で戦後女性のさきがけですが、こんな女性たちが番組にした小柳ちひろさんが大変若い方でこれからこんな仕事をずっと続けていけると嬉しく思います。

ただこれは被害体験です。だからうまく番組にできませんでした。これが加害体験だったらこれから放送できるかどうかわからない。そういう時代になってきた、といやな感じを持ちながら、いい番組を作っていたことに感謝しています。

【受賞者挨拶】

小柳ちひろ氏



立派なあなたにかい賞をいただき大変嬉しく思っています。4年前、NHKの伊藤淳さんと太田浩一さんとテムジンのプロデューサーとでシベリア抑留の取材をしたとき

こんな方々がいらつしやることがわかりました。そこから企画がスタートしました。取材の過程で取材には応じられないという方がたくさんありました。そんな方の心の傷に塩をすり込むようにしてきたこともしっかりと心にとどめておこうと思っています。

嬉しいこともありました。68年前シベリアで亡くなった女性を見たという男性の証言が番組の中にもありますが、番組を見た妹さんから初めてこのことを知ったと連絡があり、証言をした男性と会うことになりました。私はこうした体験は初めてでテレビの力を知りました。これからも取材をすることの重みを受け止めながら、自分で記録を残すことのできな人たちに光をあてて行きたいと思っています。

日曜劇場「おやじの背中」

【贈賞理由】

西村与志木氏



八木さんおめでとうございませう。テレビドラマのプロデューサーとして大先輩で、記録によると32歳からプロデューサー一本で数々の名作を出してきて、今現役として突っ走っていて、その最前線にいる。素

晴らしいなと思います。テレビのプロデューサーは番組制作の代表者ですがちよつとマゾっぽいところがないと務まらない。八木さんがどこかで土下座していたと聞きましたが、そんな大変な仕事です。私もときどきいやになりましたが、ただ番組が、特にテレビドラマが放送されるとすべてで疲れと、「よかつたな」の一言と、半分くらいの後悔などが頭をよぎりながら一つの結末を迎える。それを繰り返しているのも、精神は相当のタフさが要ります。中でも作家との付き合いは大変です。それを10人も並べて単発ドラマをやるという恐ろしい企画。よくぞ考えた、いずれ心身症になるんじゃないかと思うくらい、錚々たるメンバーに1本ずつ、しかも「おやじの背中」というワンテーマで書かせた。これを表現されただけでも素晴らしいと思います。役者さんもそれぞれ個性豊かなキャストイングパリエーのある方たちをしつかり並べた。大変な作品です。

【受賞者挨拶】

八木康夫氏



放送人の会の会報にはこの企画が通るま

プロデューサーとして、いつまでも先を走っていて欲しいと思います。

でに3年かかったとあったのですが、実は7年かかりました。というのは、これがいかに通らなかつたかということ、それが民放におけるテレビドラマの現状です。編成のドラマ担当が変わるたびに出し直したがつつとダメでした。それが1昨年、どういうわけか、企画に穴があいたのかやつてもいいことになりました。通つたものどうしようも自分のなかではどきどきだったのです。日本の現在の脚本家のベストテン、自分の中のベストオーダーを考え、このうち半分書いて貰えればと思つて始めました。ダメでもともと、宝くじも買わなきゃ当たらないの精神で10人の方に声をかけたらほぼ全員二つ返事でOKでした。皆さんに大変だつたらうと言われるのですが、そんなことはありません。脚本家のなかに今のテレビドラマの状態に対する危機意識、「このままじゃまずい」という意識があつて同意していただけたのだと思います。この方がダメだつたらこの方というリストもあつたのですが、使いませんでした。パーティーなどで「どうして私には声がかからなかつたの？」と言われることがありました。「すみません」と謝っていました。本当に驚沢なラインナップになりました。

編成部は10本同じような話になるのではないかと危惧していましたし、作家の方から「ほかの脚本家はどんな話を書くのか？」と問い合わせがあるのかと思つていました。それがそれもなく、あがつてきてみると全部違う話でした。それぞれの脚本家は他

の脚本家が何を書くか全く気にしていなくて自分の書きたいものを書いた。そして素晴らしいものができた。この企画は最初に脚本ありきで、脚本ができるかとは素で。キャストイングは「このホンですのでお願いします」と言ううと皆さんほとんど二つ返事です。後はスケジュール調整だけです。この企画の成り立ちの最初は不安だらけでしたが、スタートしてからは順調で、1本ずつ楽しんで作ることができました。今回は「おやじの背中」ですが、僕の役割はこれを統制することだと思います。次がなかなか実現しないのですが、なんとか実現させたいと思います。

「パリ白熱教室」

【贈賞理由】

河野尚行氏



「パリ白熱教室」の主人公はトマ・ビケティというフランスの気鋭の経済学者です。正直に言つと昨年の12月まで、私はこの人のことを全く知りませんでした。12月末に6000円くらいの分厚い本を買いました。それで第1章は読みました。難しい本じゃありませんが分厚いのです。そうしたら1

月になって教育テレビで6回シリーズでこの大型番組が始まりました。トマ・ビケティの特徴はいくつかありますが、その一つを言いますと人間の活動である経済を分析するには歴史的な視野で見ることが大切だとしています。いま規制緩和が声を大きくして言われています。規制緩和とは資本が持っている野性を規制の轡から解き放ち、市場の中で思い切り暴れさせることです。そうするとどんな社会になるかという、

ビケティは更なる格差社会がやってくる、貧困の連鎖が始まると膨大なデータを分析して説明しています。いま日銀は大量の紙幣を刷りまくってバズーカ砲のようにそれを市場に目がけて放っています。しかもその上に国民年金や厚生年金を投入して株価を上げることに躍起になっています。こうしただぶだぶの金融経済政策がこの先どういう形で展開し、どのような結末を迎えるか。非常に興味があります。かつてナショナリズムをおおった政治権力はまず経済にカンフル剤を打つ。そこからことを始めたというのが歴史の常です。その意味でビケティが言う歴史的に経済をとらえることは重要です。今年戦後70年、今の時代を贈分けするにはやはり歴史的視野に立つ経済の知恵が大切だとビケティは教えてくれました。2015年の年初にこうしたことを受けてくれる大型の経済番組を企画し、猛烈に忙しいビケティ先生を昨年のうちに早々に口説いてこういう番組を作ってくれた企画力に敬意を表したいと思います。

おめでとうございます。

【受賞者挨拶】

星野敏子氏



私は口下手なのですが、杉浦さんは本当に奥ゆかしい方で、代わってご挨拶させていただきます。

深夜のかなり遅い時間帯に放送された難しい経済の番組を選挙に選んでいただいたことにびびりしています。いま選考委員の方のお話を伺って納得しましたが本当にありがたいことだと思います。

この企画は最初杉浦さんから「フランスで白熱教室をやっていないから、やりたいね」という話があり、昨年の春ごろから相談していました。いろんな方との交渉が難航して6月になってピケティでやる、というふうになりました。しかし勉強すればするほどNHKで放送できるか心配でした。6回シリーズで実現したのは杉浦さんのお骨折りのおかげです。企画が通ってからピケティさんは世界中からどんどん引っぱりだかになり、まとめて収録は出来ず、野村ディレクターは収録の為40日間バりに居っ放しでした。一つの授業を撮り終わると南米に行ったり中国へ行ったりで、帰ってきたらまたやるという収録でした。

私は経済は全く苦手で、経済用語辞典な

ど見て勉強するのですがダメで、仕上げの段階で杉浦さんにいろいろ教えていただきました。

この番組の影の功労者は編集者です。短期間で徹夜で仕上げてくださいました。

深夜の番組を認めてくださった方があったこと、本当に光栄に思います。ありがとうございました。

野村彰人氏



いま星野さんも言いましたが、見てくださった方の反応は大きく分かれていて、若い人でも興味を持つ人はメモをとりツイッターに書き込む。一方40歳以上の方でも興味がないとチャンネルを変えてしまう。

今回の白熱教室は経済という難しいテーマですが、リアルな授業を撮っている。全6回のうち5回がそうで、経済を専門にする大学院2年生以上に対する授業ですだからこれが分かれば凄いです。しかし全部わからなくても心に響くフレーズ、歴史的に経済をみる視点、30年間の税制のデータをみるなど、これは必要な視点だと私は感じました。

こんなマニヤックな番組を見ていただいて本当にありがとうございます。

杉浦正明氏



こうした大先輩から賞をいただき光栄です。ありがとうございます。こんな番組に目をとめていただけるとは全く思っていませんでした。企画賞をいただいたのですが、この企画を星野さんと野村さんから提案されたとき、私は「ピケティさんでどなたですか？」でしたが、「欧米では大評判なんですよ」と言われ、私なりに調べました。調べてみますと「21世紀の資本主義」はフィナンシャルタイムズなどで批判も受けている。全くの学者ではなく、社会党の影の功

労者で、政策立案に深くかかわっていることもわかって、これまでの学者の授業とは違う「白熱教室」ができるのではないかと思いました。

番組の内容はあの分厚い本のままと行っていいと思います。講義の内容について行くのがやっとだったのですが、討論とやり取りを重視して授業を進めてくれました。新しい知の世界へ案内できたと思います。ありがとうございます。（親観会での発言）

「花は咲けども」

【贈賞理由】

石井 彰氏



私はラジオ・テレビのドキュメンタリーの台本を書いています。この4年間、毎年岩手、宮城、福島と通い続けています。この間に、放送人グランプリは「花は咲く」というNHKのキャンペーンソングに賞を贈りました。

被災地の仮設住宅に行つて、この「花は咲く」が流れると途端にそっぽを向く被災者に私は気が付きました。一方で「皆さんと一緒に歌いましょう」というとき、「花は咲く」を歌う人たちもみえました。同じ被災者でも「花は咲く」という歌の受け止め方は違います。そのことに気が付かされたのは山形放送の「花は咲けども」という素晴らしいラジオドキュメンタリーを聞いてからです。

山形には福島から6000人以上の人が避難しています。新潟と並んで福島からの被災者のもっとも多い地域です。いま被災地では3つの風との闘いが始まっています。一つは放射能の風です。また放射能は出続けています。みんな忘れていますがほとんどでているのです。その風向きによってあ

そこに暮らす人々の暮らし方が大きく変わります。二つ目は風評という風です。「福島

のものは危ない。危険だ」という噂です。

勿論現実には危険なものもあります。風評という言葉ですべてを片付けてはいけないと思

っています。現実の影響と風評とは分けて

考えなくてははいけません。今後根拠はど

なるか、私の故郷の御嶽山は爆発しました

がこれからどうなるのか、そんないろんな

ことを風評という言葉で片付けてはいけな

いぞ、とこの番組を聞いて思いました。三

つ目は風化です。「もう震災のことはいい

るぞ」そろそろ自立して貰おうじゃないか

と考えているのは政府だけではありません。

むしろ一般の視聴者です。そんな中で、東

日本大震災で何が起きたのかを、丁寧に、

聞きやすく、面白く、はっとさせる番組に

作り上げた山形放送の皆さんに心から感謝

したい。

とにかくこの番組は面白い。「花は咲く」と

いう歌に対して「花は咲けども」という

歌を影法師がやっています。このグループ

はもう40年の歴史がありますが、米農家の

苦勞、減反の苦勞、都市住民のいい加減さを

が入ってきます。オーソドックスだから力

があります。

「花は咲けども」は皆さんも聞くことが

できます。影法師は自分たちの著作権を放

棄して、誰が、いつ、どのように歌っても

いい。どんどんyou tubeにあげて

くれと言っています。皆さん是非「花は咲

けども」を聞いて、歌ってください。その

ことが明治維新以来の、僕は今の長州政權

は日本をとんでもなくすると思っ

ています。風に対して、山形の人が一陣のつむじ

風のような本当の風を起こしてくれた。そ

んな素晴らしい番組です。そして「花は咲

けども」という歌を応援してください。そ

のことが「花は咲く」というキャンペーン

に賞をあげてしまった痛恨の極み(爆笑、

愚かさ)この前じっくり聞きましたが「花

は咲く」はやはりつまらないです(笑い)

—そんな中で、山形放送の番組に心をこめ

て賞を差し上げたいと思います。

【受賞者挨拶】

伊藤清隆氏



の番組です。

この場に立つのは昨年のNNNドキュメ

ント「福島ナース」で奨励賞をいただいて、

2年連続という奇跡です。一生に1回のチ

ヤンスだと思っ

て挨拶をディレクターに譲

って貰いました。

影法師は支社で記者カメラで取材をして

いたときから取材を重ねてきました。彼ら

は演奏活動のほかに珍しい枝豆とか在来野

菜の栽培もしていて、「新曲ができました」、

「収穫が始まります」とか、その都度フ

ァックスでニュースリリースをくれます。目

立ちたいというより何か世間に発信したい

のだと受け取っ

ています。その衝いのな

さ、世間にまっすぐ向かっている姿勢をま

ぶしく感じておりました。それが今回の番

組につながったのだと思います。

先ほど石井さんが被災者6000人とお

つしやつたのですが、今日の山形新聞では

おとといの日付の発表で、山形県にいる避

難者の数が4000人を下回ったという記

事があります。これがトップの見出しとい

うのもどうかと思いますが、時間が経つに

つれ問題はどんどん大きくなって

いるのだと感じています。地方だからこそ、山形だ

からこそ発信できるものを探して行こうと

思っています。

なお「花は咲けども」のテーマではテレ

ビでも継続的な取材が続いています。

なお、今回の番組については山形の放送

人の会会員で今年3月に亡くなられた大類

啓さんから中央と東北との関係という視点

についてたびたび指導を受けました。明日

が大類さんの月命日です。この受賞をとて

も喜んでくれると思います。この壇上に導

いてくださった大類さんと放送人の会の皆

さんに深くお礼を申し上げます。

伊藤和幸氏

影法師というフォークグループは60歳

過ぎの4人のグループで、山形放送は40年

前から取材を重ねてきました。私も先輩の

仕事を引き継ぎ取材をしてきました。影法

「世界の果てまで行ってQ！」

【贈賞理由】

松山珠美氏



こういう席ではバラエティーはいつも入っていない、古立さんも先ほどから場違いな感じを一人かかえているのかなと思っ
てこつそりみておりました。しかしテレビ
はやはりバラエティーが主流だと私は思
います。バラエティーが元気でないと皆さん
テレビを楽しめません。最近面白かったの
は報道ステーションの古賀、古館お二人の
コントですが(笑)、古館さんが「おつと
」などと言ってくると面白くも思っ
ていました。そうはなりません。あ
のとき古館さんは「顔面蒼白」という辞書
の言葉の横に写真を掲載したいような表情
をしていました。一方こちらの古立さんは
飛ぶ鳥を落とす勢いです。バラエティーの
中で私が一番好きな「世界の果てまで行っ
てQ！」のディレクターですが、私は誰が
プロデューサー、ディレクターか全く気に
しないで、テレビっ子がそのままテレビお
ばさんになって見えます。

の番組は世界に飛び出して、躍動感のある
画面で楽しませていきます。

もう一つ「月曜から夜更かし」というマ
ツコさんが出ている番組があり、これも大
好きで見ているら同じディレクターでした
「月曜から」はマツコさんに見せるVTR
の仕上がりが高い。昔バラエティーが元
気だった時代の作り方で番組を二つ作っ
ています。テレビ局は日テレだけあればバラ
エティー好きの私は満足で、その日テレの
中で最も輝いているのが古立さんです。こ
覧の通りまた若さです。放送人の会の人
たちの思いを託されて、背負って立つ人だ
と思います。これから古立さんの作る番組
はずっと見続けようと思います。

【受賞者挨拶】

古立善之氏



本日はテレビ界の大先輩からこのような
素晴らしい賞をいただき本当に光栄です。
先ほどからほんとに肩身が狭かったので
すが、居やすくしていただいていたことがと
うございます。

「世界の果てまで行ってQ！」という紀
行番組を作っていますが、紀行番組を作る
のはいま難しくなっています。テレビが始
まって60年、放送界の先輩たちがすべて刈
り取ってしまった、世界を見渡してもいま

やカメラが入っていないところはなく、大
変だという状況です。

僕がテレビを見て育った80年代は紀行
番組全盛期で、テレビに釘付けになり、ゲ
ラグラ笑い、ライオンがシマウマを狩ると
ころをみて世のすべてを知るような時代を
過ごしていました。それと同じような番組
を子どもたちに見せてやりたい気持ちを持
っているのですが、テレビ界は先人たちが
やったものを避ける風習があります。「古い
ネタだね」「そんなのもう常識だよ」と片付
けられます。それを何とか見せる手段とし
てキャラクターをのせるという手法を使っ
ています。キャラクターはいまも新しい人
が生まれてきます。それをうまく押し上げ
てフィーチャーして売りに出していきます。
この賞を糧に、僕が先輩から受け継いだ
テレビからの恩恵を次の世代に渡して行く
ことを意識しながら番組を作っていくこと
を思います。

大山勝美賞

【受賞者挨拶】

訓勅 圭氏



古立さんは記憶にない諸先輩かもしれま
せんが、私は中途半端に偉大さを知ってい
るので方々なのでひたすらいじめられてい
るような気分です。

石橋さんからある日突然電話がかかっ
てきて、「何だろう。放送人の会の勸誘なら
先日入会したぞ。おかし」と電話に出る

と大山勝美賞だと、「ああ受付か」と思っ
たら「君だ」。それは勘弁してください。身
に余る。重すぎる」と思いました。
僕は大山さんとお仕事をしたことあり
ません。この会で何年前かに「ハゲタカ」
で賞をいただき、顔を合わせ、やさしいお
じさまだなあと思いました。

二つ思い出があります。

ある日突然僕のところを訪ねてこられて
「大山です。ご存じでしょうか?。知って
るに決まっています。何だろうと思っ
ると封筒から「そと企画を出して、こ
れをどこに持って行けば通りますか?」。
「いやいや、少なくとも僕じゃないでしょ
う。それから延々と企画の説明をされま
した。僕のところに来るまでに何人かの人に
説明をされたのだと思いますが、全く温っ
ぽくなくて素敵だなあ、と思いました。

その何年後か、「あまちゃん」をやっ
て、放送が終わって電話があり、「もう何人
もの人にほめられているだろうけど、本
当にいい仕事をしたね」と言われました。実
はそんなことってあんまり言われません。
僕は本当に嬉しくて作っているときは疑わ
しい気持ちでやっているので、大山さんに
言われて初めて「いい仕事をしたのかもし
れないなあ」と思いました。

今回も作り難くて悩んでいるときの賞で
すので、励ましていただいたと思いい、頑張

つて行きます。
塚原あゆ子氏



懇親会 スナッフ



今日はこんな素晴らしい賞をいただきありがとうございます。大山さんの作品は入社してすぐドラマをやる者の教科書のような気持ちで何度も拝見しました。そんな方の名前のついた賞をいただいたことを本当に誇りに思います。

賞状のなかに「女性ならではの」という言葉あり、じぶんでは無自覚なので、生まれ

て初めて「そんなのかな」と思います。いろんなドラマがありますが、人をできるだけ優しく、いいだけの人も、悪いだけの人もいないことを前提に真摯に切り取って行けるディレクターになりたいと思います。

この前ちょっと嬉しいことがありました。上司に連れて行って貰ったバーでママのママが「あなたの作品なのね。みてたわよ。」

「仕事があつただけと気になってみたの」と言われました。テレビって淡いなど再確認しました。すべてが報われたような気がしました。辛いこと、難しいこといろいろありますが、テレビの力を信じ、顔の見えない方の何かの力になるような作品を作るよう頑張ります。



日韓中テレビ制作者フォーラム

10月28日から31日までの4日間

韓国(釜山)で

今年のフォーラムの準備会議(日本から山

田尚、渡辺敏史、牧之瀬恵子の3名が参加

した)が5月7日、韓国(釜山)で開かれ、

今回のフォーラムの概要が決まりました。

今大会のテーマは「アジアフォーマットの

可能性」。

このテーマ、極めて実利的なテーマに過ぎ

て、歴史認識を巡って議論のあった昨年の

横浜大会を念頭に、その類は避けようとする

意向があるとお感じになる方がおられる

かもしれません。

しかし、その理由のほとんどは、現在の韓

国・中国の置かれた切羽詰まった制作上の

理由と、韓国の主催者であるPD連合会の

資金調達上の、これも切羽詰まった状況に

あるとみています。

「承知のように韓国の放送事情は、放送コ

ンテンツの制作費高騰と、地上波以外のB

S、CS、CATV放送局の乱立で、メデ

イア制作者の間でも、制作を巡る資本市場

においても群雄割拠状態です。中国でも同

様、特にCCTVの垂直構造が水平分離さ

れた以降は、コンテンツ制作をめぐる

制作者、資本の取り合いは熾烈を極めてい

ると思われま

す。その中で、中国韓国の間では、常設で共通

の場としてのコンテンツ市場が形成され

、日常的に2国間のPD制作者が集まり、企

画の内容、資金参加、共同制作を巡っての

議論が行われています。そうした状況では、

韓国、中国の制作者にとっては、共同制作

や、「番組フォーマット」売買という、言い

方を変えれば、商売がらみのテーマは、常

に切実な問題です。そして実はこのことが、

なぜ開催地が釜山で、なぜ開催時期が10月

末なのかともつながります。昨年の大会で

我々が聞かされていたのは、開催地は扶余

でした。結局扶余にスポンサーが現れず、

韓国第2の大都市、釜山の国際コンテンツ

見本市「BCM釜山・コンテンツ・マーケ

ット」の援助と便宜を得てのフォーラムと

なったということです。BCMの会期は、

まさに10月28日から31日まで、会場は、

BCM参加者のメイン宿泊所、グランドホ

テル内の予定で、フォーラム参加者には、

BCMでピッチング(企画のプレゼンテー

ション)をする人を加えてほしいとの条件

もあります。今回の準備会議の日程も5月

の春のBCMの会期に合わせ設定され、日

韓中の準備会議のメンバーがうち揃って開

会式のパーティーに参加する日程でした。

会場には、韓国中国のお互い旧知の若い制

作者たちが、肩を寄せ合うように密談商談

雑談をする姿が、数多くみられ、こうした

情景が日常化していることや、彼らが常に

制作の実現に向けて腐心している様子がう

かがわれ、韓国側の台所事情は別にしても、

韓国中国の制作者にとっては、番組内容は

ともかく、制作実現のための障害や困難は

極めて大きいという事実も表しているよう

です。

このテーマで何が語られ、何が議論される

か、今予測することはできませんが、このフ

ォーラムに求める意味や関心度から、若干

の違和感があるかもしれない日本の放送人

の会や、制作者にとっては、逆に新鮮であ

り、ドメスティックで、安定的市場の中で

安住する己が急に逆照射されるものがある

かもしれないという期待もしているところ

です。

寄り添って歩く韓中制作者の後ろを、独り

おかれて歩く日本とならないように、充実

した作品を出品し、3国間で実りのある議

論が行われることを期待しています。

その他準備会議では、各国3作品、ジャン

ルはドラマ、ドキュメンタリー、バラエテ

ィー(エンターテイメント)。テーマ作品は

1作品以上。昨年の横浜大会を倣い、全作

品を全員で試写鑑賞し、全員で議論する原

則を確認しました。

6月中には出品作品の選定、7月には参加

メンバーの決定や各種資料の韓国送付など、

日韓中プロジェクトの作業が急がれます。

会員の皆様にはフォーラムに向けての様々

な知恵の提供をお願いするとともに、でき

るだけ多くの会員が参加することを期待し

ています。

渡辺 敏史

放送人の会

2015年度総会

放送人の会・第3期・2015年度総会
は、5月16日(土)、港区南青山・NHK
青山荘で行われ、2014年度の活動報告、
決算承認、2015年度の活動方針、予
算・運営体制を決議しました。

新しい運営体制は左記の通り。

【理事】(50音順) ◎は新任

雨宮 望、石井 彰、◎石橋映里、石橋 冠

伊藤雅浩、加賀美幸子、加藤滋紀

金平茂紀、北村充史、工藤英博、隈部紀夫

小池勝次郎、◎近藤邦勝、今野 勉

桜井 均、◎佐々木彰、菅野高至

◎鈴木嘉一、鈴木典之、曾根英一

田中秋夫、◎永田俊和、西川 章

◎西村与志木、林 健嗣、◎逸見京子、

堀川とんこ、前川英樹、松尾羊一、

村上雅通、山田 尚、◎吉田賢策

渡邊紘史

(退任) 荻野慶人、武本宏一、長沼士朗

山路家子

【監事】 河野尚行、並木 章

【役員】

会長 今野 勉

副会長 石橋 冠、前川英樹、渡辺紘史

総務委員長 前川英樹

事業委員長 渡辺紘史

広報委員長 伊藤雅浩

各プロジェクトのメンバーなどは現体制
継続を基本としながら、7月の理事会で決
定する予定です。

「今年」の目標

放送人の会会長 今野 勉

もう一期、会長を務めることになりました。

会員の皆様よろしくご協力のほどお願い致しま
す。

今年の総会及び放送人グランプリの様子は会報本
身に掲載されています。わけても、放送人グランプリ
の受賞理由の報告、そして受賞者の挨拶は、会場
に居た私もしばしば胸を打たれました。もっと多く
の会員の皆様がこの場に居て、この場の空気を共に
感じてもらえたら、と何度も思いました。来年は、
さらに多くの会員の方にご来場頂きたく思います。

放送人の会の今年の活動目標の一つに、会員同士
の交流の場を作ること、を挙げました。視聴者の皆
さんとの交流イベントはそれなりの評価を頂いてい
る割に、会員同士が交流する機会が少ない、という
思いは私にもありました。今年はその機会を是非作
りたいと思っております。

放送人の会の対外的発信と共に放送人としての私
たちのあり様も話したいと思っております。

2014年(平成26年度)決算

経常収益	
年会費	2,745,000
寄付金	
寄付金	5,000
大山基金振替	2,936,583
事業収入	
放送番組センター	2,000,000
イベント収入	150,000
日韓中フォーラム	14,856,780
受取利息	1,194
収益計	22,867,557

経常費用	
事業費	19,387,473
名作の舞台裏	364,862
人気番組メモリー	2,080
放送人の世界	95,800
放送人の証言	208,722
放送人グランプリ	757,172
ラジオプロジェクト	11,302
放送人句会	113,233
日韓中フォーラム	17,834,302

管理費	4,070,098
給料手当	1,351,650
諸謝金	277,501
事務所賃借料	363,528
通信費	408,785
旅費交通費	252,958
会議費	334,492
印刷費	159,180
会報作成・ネット関係	340,978
事務用品費	35,064
消耗品費	46,470
交際費	16,200
支払手数料	28,612
支払報酬	453,600
租税公課・雑費	1,080

経常費用計 23,457,571

当期一般正味財産増減 △590,014

一般正味財産期末残高 847,089

大山基金残高 47,070,150

2015年(平成27年度)予算

経常収益	
年会費	2,400,000
寄付金振替予定額	1,050,000
事業収入	
放送番組センター	1,800,000
イベント収入	160,000
経常収益計	5,410,000

経常費用	
事業費	2,280,000
名作の舞台裏	600,000
人気番組メモリー	200,000
放送人の世界	100,000
ドキュメンタリー	50,000
放送人の証言	150,000
放送人グランプリ	750,000
ラジオプロジェクト	60,000
放送人句会	70,000
日韓中フォーラム	300,000

管理費	3,978,000
給料手当	1,350,000
諸謝金	250,000
事務所賃借料	863,000
通信費	180,000
旅費交通費	180,000
会議費	130,000
印刷費	150,000
会報作成・ネット関係	320,000
事務用品費	35,000
消耗品費	30,000
交際費	30,000
支払手数料	30,000
支払報酬	430,000

経常費用計 6,258,000

当期経常増減 848,000

前年度繰越金 847,089

正味財産残高見込み △911

いろはに時代劇とその始末

菅野高至

忘れもしない93年の5月、「はやぶさ新八御用帳」のクラシックイン初日。公衆の面前で、平岩さんの愛の鞭がしなり、僕は一時失神しそうになってしまった。

渋谷のNHK105スタに作られた町奉行所の役宅の縁側で、記者会見を開いた。主役の新人郎・高嶋政宏、ヒロインお煙の有森実美、根岸肥前守の山口崇、原作者の平岩さん、縁側に座布団を敷き、四人、正座での会見のつもりが、高嶋さん一人、足が悪く、あぐらをかいていた。

僕と番組広報のKさんは庭で立って司会進行をつとめ、Kさんがみなを紹介し、僕が番組と出演者、見所などをPR。そして平岩さんにマイクが渡り、開口一番！

「正座もまともに出来ないのが、時代劇の主役だなって、NHKも終わり。」時世だね」と、キツイイヒと言が降って来る。華やかになるはずの会見の場が、瞬間冷却され、僕は気が遠くなった。

慌てて我に返り「いえ、あの、彼は学生時代にスポーツ、アメラグ（アメリカンフットボール）で、膝を痛めて、今ちょっと悪んで、済みません、芝居の時は正座します。ね、高嶋君！」とフォローしたが、後の祭りだった。

その後を、どう納めて、どう平岩さんをNHKの西口から送り出したものか、全く

記憶が無い、飛んでいる。

今、考えると、平岩さんに事前に話を通しておけば、傷は浅かったのだろうか、僕も動揺していたのだ。前日の本読み稽古の時に、彼から古傷を痛めて膝が悪くなり、正座が辛いと聞かされ、収録が延びないための対策だけを考えてしまう。演出に正座を少なくするよう頼み込み、追加の台詞が欲しいシーンには、脚本家の下川さんに連絡を取って、直して貰う。

当日の朝、セットを見て、そうか高嶋君は、会見でも正座ができないんだと、かっとな気がついた。だが今更、稽古場に会費場を移すわけにも行かない。まあ、しょうがない、まあ、強行突破だ、何とかなるだろうと考えたのだ。だが、何ともならず、平岩さんにしつかり叱られたという、プロデューサー失格のお粗末な一件である。

「お客様を舐めちゃいけないよ、お若いの！」こう、平岩さんは叱ったつもりだったのだから、僕と高嶋君に。

高嶋政宏さん、当時、28歳である。時代劇も出来る、大きな役者に育って欲しかった。91年NHK大阪制作の「近松青春日記（全13回）の主役があるが、若き近松は町人だった。身長185センチ、着流しの立ち姿が決まる、青年武士を見たいと思ったのだ。

この時、平岩さんは60歳、遺腹だが、ばりばりの現役、流行作家であった。

今は83歳であるが、創作欲は衰えを知らない。「新・御宿かわせみ」の第7シリーズ

『お伊勢まいり』の連載が、「オール讀物2月号」から始まった。一度の大嵐で、旅館の屋根が吹き飛び、建て替えるため旅館は休業となり、娘の千春の勧めもあり、るいとお吉らはお伊勢参りに向かう。連載四回目で、一行は由比宿と興津宿の間の薩埵峠（さつたとうげ）を越える。道中の事件はまた始まったばかりである。

タフで疲れを知らぬ平岩さんが、一度だけ、僕に愚痴をこぼしたことがある。04年の秋のことだが、「御宿かわせみ（第3章）」のラインアップを決めるにあたって、NHKで打合せをした。本題は三千人足らずで終わり、暫し雑談となった。

平岩さんの母親が認知症となり、徘徊するようになって、介護で大変だとこぼし始める。手洗いやお風呂は恥ずかしがつて、娘の私にしか体を触らせたがらない。それでも昼間は、お手伝いさんやヘルパーさんなどの人手があるので、まだ楽なのだが、夜の介護は平岩さん、一人きりとなる。

夜になって、何処で仕事をすればいいのか、平岩さんは困ってしまう。寝ている傍で、灯りを付けて原稿を書けない、母を起こして、昼夜を取り違えるようになっては元も子もないからだ。しかし、締め切りは待つてくれない。連載が月に2〜3本はあったはずで、合間を縫って、史料読みや書き下ろしの準備もある。

劇余の一策を思いつく。母親の寢室の押し入れ下段を空にして、丸いちゃぶ台と電気スタンドを持ち込み、書くスペースを確保する。赤い糸ならぬ、腰紐で、母と自分を結び、紐が動かないかを確かめながら、

原稿を書いているのよ、と少し自慢げに言う。こういう時の平岩さんは、腰織つ子のように、可愛い。

その日、平岩さんをNHKの西口玄関まで見送る。散歩がてら買い物をして帰るから、送りのタクシーは要らないよ、と帰って行く。

歩き出したその後の姿に、深夜、押し入れで、江戸の古地図や史料を並び、くるまつて一心不乱で小説を書く、平岩さんの姿を重ねてしまう。

平岩さんがと語ったことがある。「日本人の美德って何だと思っ、あなた分かる？」と、昔の人の良いところは、恥を知るという感覚があった。人は「恥ずべきことを知り」、「恥を恥として知る」。ひと（他人）の所為にしないで、まず、己を疑い、「己を恥するの。」お天道様に申し訳ない、お天道様が見ている、みなそう思っ生きていた。今はね、恥知らずの人間、増えたのね。

書けば書くほど、道徳の時間になるが、これは、代々木八幡の森に生まれ、森に囲まれて、生きて来た証でもあるだろうか。代々木八幡宮は、標高32位の台地上にあつて、鎮守の森に囲まれている。昔は、上りが遅い脚本家対応のロケ地として、ストロークはさほど無いが、よく使われた。

僕も、時代劇で使っている。残念ながら、今は鳥居の近くまで山手通りが拡張され、参道が削られ歩道となり、表の見栄えが悪くなった。鎮守の神も街の騒音を気にしているに違いない。

(つづく)

ラジオのページ

ラジオプロジェクト活動報告

1、新運営体制決まる

5月16日(土)に開かれた放送人の会理事会と総会に於いて第3期(2015年度)の運営体制が決まりました。

ラジオプロジェクトの運営に関しては永らく理事を務められた武本宏一氏が健康を理由に退任された為、新たに永田俊和氏(LF出身)が選出されました。

その結果、今後2年間は松尾羊一(名誉顧問、石井彰、田中秋夫の各氏に加え永田俊和氏の4人がラジオPの運営に当たります。

2、新入会員紹介

放送人の会・ラジオプロジェクトに下記のお二人が新たに入会されました。

延江 浩氏(FM東京編成制作局ゼネラルプロデューサー)

増山麗央さん(FM東京編成制作局報道情報センターディレクター)

その結果ラジオPのメンバーは総勢28人になりました。

3、松尾羊一氏が「志賀信夫賞」を受賞

ラジオPの松尾羊一名誉顧問(85歳)は放送批評懇談会の今年度「志賀信夫賞」を受賞されました。この賞は放送の発展に貢献した個人・団体を表彰する賞で、放送批評の第一人者だった故志賀信夫氏の功績を記念して2009年に設立された賞です。

表彰式は6月2日(火)恵比寿ウエスティングホテルで行われるギャラクシー賞受賞式で行われます。

松尾さん受賞おめでとうございます。

4、第12回人気番組メモリー

「オールナイトニッポン」70年代同窓会を開催

放送人の会と放送番組センターの共催で毎年1回実施している「人気番組メモリー」は番組のスタッフ・キャストによる公開トークショーで今年12回目を迎えます。

今回は放送人の会ラジオプロジェクトが発足したと、またラジオ放送開始90年の年にも当たる為、このシリーズで初めてラジオ番組「オールナイトニッポン」をとりあげることにしました。

ニッポン放送をキーステーションとするこの番組は1967年の番組スタートからすでに48年の歴史を誇り、全国の深夜ラジオを席巻しています。

テレビや昼間のラジオでは放送されない若者たちのリアリティに沿った選曲や、個性豊かなパーソナリティは各時代のリスナーを虜にし、現在も時代の息吹を発信し続けています。特に70年代には団塊世代中心に深夜放送ブームが巻き起こりフォークソングと共に新しい文化を形成してきました。

今回は当時の出演者たちが懐かしい音源やエピソードを交えてその時代を語ります。

出演交渉に当たっては元ニッポン放送の藤井正博さん、放送人の会々員で同局出身の永田俊和さんに全面的にご協力いただき

同番組の初代パーソナリティだった斎藤安弘さんをはじめ、フォーク歌手のイルカさん、名古屋の人気パーソナリティで放送人の会々員のつボイノリオさん、司会にニッポン放送のチーフアナウンサー上柳昌彦さんが決定しました。

尚、放送人の会々員で参加希望者は当日会場受付にお申し出下さい。

(タイトル)

第12回人気番組メモリー

「オールナイトニッポン」70年代同窓会

(出演) 斎藤安弘、つボイノリオ、イルカ、藤井正博(LFディレクター)

(司会) 上柳昌彦(LFチーフアナ)

(日時) 6月13日(土) PM1時30分～4時

(場内) 横浜情報文化センター6F

情文ホール(抽選で200名無料招待)

(MC) 田中秋夫

「おかげさまで」の

橋渡し役を目指す

福井放送ラジオ営業部 部長

重盛政史

この一年「おかげさまで」という言葉をよく使いました。それは慣用的な使い方ではなく、身を持って感じて出た言葉。

2014年度、私の担当する本社ラジオ営業の数字は「おかげさまで」タイム・スポットとも対前年をクリアすることが出来ました。

当社も多分にもれず2008年のリー

マンショック以降、ラジオの数字は芳しくありませんでした。いわば下げ止まり感の無いまま推移してきたのではないかと思います。しかしながら、一昨年(13年)11月～昨年10月まで、12ヶ月連続でスポットが対前年越え達成などもあって、14年度は全体に明るい兆しが見え始めて幕を閉じました。

またラジオ営業部は部長の私を入れて3名しかなく、私も担当代理店や直スポンサーを持ってプレイングマネージャーとして取り組んでいます。(昨年は一人当たり1億以上の売上成績ともなりました)

この調子で今期(15年度)も伸びていけば、V字回復よろしく、後に「2014年度が下げ止まりになった年だった」と考察されるようになればよいのですが、昨年喜んで作った数字はいま悲哀を帯びてわが身ののしかかり、4月に入って早速昨年実績の数字を追いかける営業ロードが毎日続いています。…となにやらわかつたような(?)ことを述べましたが、じつは営業2年目のまだまだ何もわからない新人であります。

ラジオセンター制作担当部長からラジオ営業部長とし異動したのが昨年4月のこと。制作現場一筋25年やってきましたが、営業としてようやく丸一年が過ぎました。

この一年、マイクの前での言葉は出るものの営業トークの常套句も持ち合わせず、ボキャブラリーも少ない私ですから「おかげさまで」の一言は心からの言葉として出てきたものと思います。

担当代理店から出る単発のスポット、直
スポンサーの「ラジオはレスポンスが期待
できない」という声に耳を傾け、違う提案
をして継続につなげる。すべて「おかげさ
まで」となります。

やはりラジオの現状は苦しいです。声や
顔を売っていた私ですが、新規へ出向き、
名刺交換のあいさつで「あ！あの重盛さん
ですか！」とはなるものの、そのあとの決
定に実を結ぶということは、まったくあり
ませんでした。

では、クライアントにラジオの何が刺さ
るのか。正直、各クライアントによって
千差万別なのがラジオだと考えます。テレ
ビですと視聴率・GRP・パーコスト・ス
ポットの引き方などの効率を材料に提案と
なりますが、ラジオはテレビの提案とはま
ったく別物となります。

ではどのような材料がラジオにあるのか
；弱ったことに当社では聴取率はここ数年
取らないので「データが無い」。クライア
ントからは「ラジオを聴かない」といわれ、
そのうえ、テレビと比較されて「テレビや
ネットなどの他媒体へ広告費が流れる」；
などなど、環境はやはりよろしくありません。
そんな中、おかげさまで2014年度
の数字が良かったのは、いままでの種まき
の成果だと考えます。（私が配属前の…で
すね）

基本的には「テレビはカンフル剤・ラジオ
は漢方薬」「テレビはアッパー、ラジオは
ポディーブロー」のように効いてくる、と

いうメディア特性に則れば、テレビの提案
とはまったく別物となります。もちろんク
ライアントによってはテレビのように、費
用対効果でスポット1本当たりの単価が格
安になるスポット企画を好むこともありま
すが、漢方薬のように時間をかけて効くメ
ディアということを理解していただくため
には、それと同じくらい時間をかけクラ
イアントとのつながりを構築していくこと
これがラジオ営業の基本姿勢と考えます。
どの媒体にでも広告を出すうえでクライア
ントが期待することは共通して「レスポ
ンスがあること」です。「誘客につながった」
「販売促進につながり売上もあがった」「イ
メージが向上した」…。

もちろんこれは広告を出すうえで基本的
なことですが、このレスポンスの感じ方も
ラジオの場合、クライアントによってとら
え方や満足感は千差万別です。

ラジオの営業ツールはラジオCMや番組提
供のほかに、ワイド内のスタジオ出演枠や
ラジオカー中継の出演CMなどがあります
が、ドライバータイトムでのスポット訴求か
らクライアントによっては時としてレスポ
ンスに直接つながりませんが、ワイド内で
クライアントがお気に入りのパーソナリテ
ィに商品紹介してもらったことへの満足
感などもあります。

いずれも「ラジオを聴いたよ」とクライ
アントの周辺で話題になることが好印象に
つながっていきます。この積み重ねしかな
いと考えます。

最近あるクライアントから「テレビだと
すぐに友人からラインにも 社長、見た
よ」と来るが、ラジオは出しても反応が無
いのでやめた」と申し出がありました。
これは今も私の中で宿題になっている案件
の一つです。

番組のSNSやテレビの番宣なども活用
しながら検討はしていますが、やはりラジ
オの特性を感じていただけず、粘り強
くつながっていくしかないと考えています。
私は制作現場に25年いましたが、恥ずかし
ながら、私の番組についてくれたクラ
イアント先へ、番組制作者・しゃべり手と
して積極的に近づいたことはありませんで
した。

いま、営業というセクションになったか
らこそではありませんが、クライアントの工
場や展示場にはもちろん足を運びますし、
商品に触れさせてもらっています。改めて、
営業も制作も自分たちが宣伝している商品
を知ること、お金を出してくれる人を知る
こと、これがラジオにとって非常に重要だ
と感じています。

わたしは制作出身者の営業マンですが、
制作陣との間を取り持つ意味でも、またま
だ有利な点はたくさんあると思っています。

この一年は私が「おかげさまで」という
言葉を多く使いました。これは私の至らな
さの表れでもあったのですが、今後はクラ
イアントから数多くの「おかげさまで」（レ
スポンスがあつたよ…など）との言葉をい
ただき、制作からも「おかげさまで」（番組

が良くなった…など）といわれる橋渡し役
でいたいと考えています。ラジオマンの一
人として。

明日があるさ！

イー・エヌ・エー株式会社代表取締役

林 安一

糊しろ

新しいツールの登場は、それまでには思
いもしなかったことを気付かせてくれます。
その最たる例が、スマートフォンかも知れ
ない。ポケットに携帯電話が一つあれば何
時でも、何処でも、世界と繋がることで
きる。繋がるだけでなく検索することもで
きる。つまり、どこに居ても図書館に居る
ことと変わらない訳です。だから、周りは
いつも情報の海。呼吸の仕方さえ間違わな
ければ溺れることもなく未曾有の恩恵にあ
ずかれます。

一つの情報を得るためにいろいろな所へ
出かけたり、知っている人を捜して一生懸
命お願いをした時代とは全く仕組みが違
ってしまつた。そのせいか、若い人の「糊
しろ」が極端に減つてしまつたような気が
します。糊しろが減るとどうなるか。
コミュニケーション能力が下がる。皮肉な
ものだ。誰とでもつながれる環境を手にし
ていながらコミュニケーション能力が下が
っている。

昔、ラジオの世界は典型的な家内制手工
業だった。だから、一人の人間が何でもや
らされたし、またそのお陰でいろいろなこ

とを身につけることができた。しかし、FM局が出来て以来、こうした構図は変わった。「音楽が好き、だから選曲をやらせて下さい」と言ってくる人達が現れたのだ。実際、初期の段階ではこれがうまく機能していた。だが、時間が経つと様相が変わってきた。遅ればせながらそこに「物語」が求められたのだ。これからは「物語を紡ぐ人」が貴重な存在になっていくのかも知れない。でも、よく考えてみると、番組作りというのは「物語を紡ぐ」ことではなかったのか？ その「物語」を効果的に伝えるために「音楽」が必要ではなかったのか？ すると「何を言っているんだ！音楽を効果的に伝えるために「物語を紡ぐ」ことが必要なんだ！」と云う声も聴こえてくるのだ。

似たようなことがTVの制作現場でも言える。もともとシステムのモノづくりを進めていく構造から始まっているだけにここでは各種の専門性が必要だ。だから当然それを束ねていくだけの知力、想像力、創造力、交渉力そして体力を併せ持った人間が必要だ。しかし、パーツを受け持てる人は増えたけど全体を束ねられる人物が減ってしまった。ラジオの現場でもTVの現場でも、大きな人間が減っている。メディアに元気がないのはつまるところ、こういうことではないだろうか。

Wonder

2012年のロンドン・オリンピックのテーマは「The Isles of Wonder」(驚きの

島々)でした。それに続いて行われた、オリンピックでは、ステイヴン・ホーキング博士が「宇宙が存在することをもっと不思議に思いましょう！」といったようなことを語りかけていた。

60代だったろうか、名著「沈黙の春」で化学物質が日常生活を汚染していると警鐘を鳴らしたレイチェル・カーソン女史。彼女は、その後エッセイ「Voice of Wonder」の中で「Wonder」の気持ちを持つことの大切さを教えてくれました。

僕はこの「Wonder」と云う言葉が大好きで「Wonder」こそ「ラジオの原点、だと勝手に思い込んでいるのですが・・・」。

パッション

そう言えば、3年前にL.Aで開かれた「ワールドワイド・ラジオ・サミット」(註)でオンライン関係者とラジオ関係者が熱い論戦を展開しました。オンライン関係者は「これからのエンタテインメントビジネスは不特定多数ではなく、個人ベースのデータが必要だ。ラジオにそれが出来るのか」と挑発します。これに対してラジオ関係者が実に胸のすつきりすることを言ってくれました。「ラジオはパッションだ！エンタテインメントビジネスの原点もパッションだ！」。この理屈を超えた一言に会場からは割れるような拍手がプレゼントされました。

思い込み

分子生物学という分野の発達は人間というものの本質に目を向けさせてくれます。人間の細胞の数は6兆個、そして毎日30

00億個もの細胞が生まれ変わっているそうです。僕は、この事実を勝手に解釈して「明日になれば！」、「明日の自分は今日と違ぞぞ！」。そう言い聞かせて独立して27年、会社を設立して25年走っています。でも、或る時、分子生物学者にお会いする機会があつて上述のようなことを話したら「そういう一途な思い込みは必要ですね。エネルギーになりますから。でも、生まれ変わらない細胞もあるのですよ。例えば脳の細胞などですが・・・」と言われて冷や汗をかきました。

だからと云うべきか、やっぱりと云うべきか、歳を重ねたら古いままの頭を使うのではなく、新陳代謝をしている体を使うこと、そして本能で知覚するべきかも知れません。

「糊しろ」 wonder 「パッション」 思い込み この非論理的言葉が秘めているモノこそ僕たちが声を大にして、否、粘り強く行動で示していくべきことではないか。そこにこそ確かな「明日がある」、そう思い込んで今日もバタバタ走り回っています。

【註】Worldwide Radio Summit: MDRB, BOB SMIT と一緒に毎年4月下旬、L.Aのハリウッドでラジオビジネス関係者、音楽ビジネス関係者を対象にして開催される実務ベースのラジオビジネス・コンベンション。

第50回放送人句会

平成27年5月12日(水) 於:赤坂・表参道

選者:星野高士

出席:伊藤親郎、荻野慶人、佐々木光政、鶴橋康夫、新村もとを、西川阿舟、林備後、藤森いずみ、堀川とんこ、森治美(11名)

不在投句:山鬼ほん太

兼題:母の日、風薫る、鯨、キャステイング(配役)(業京用語)

【星野高士特選】
母の日や小言も肉もかつ食らふ いずみ
手形碑に鰻魚を見つけ風薫る いずみ
配役の発表ありし薄暮かな 治美
薫風や大樹に憩ふ大鰻 備後
白鯨の少し悲しき魚信かな 備後
母の日や椀捨山に似たチラシ 慶人
友垣は隙間だらけで風薫る 慶人
牡丹散りやくさ映画のキャステイング 視郎

【星野高士選】
忍び来て伊香保の宿や風薫る もとを
老衰で母眠りしは母の日よ 治美
相模湾いよよ静けし鯨を釣る 備後
風薫る介護ホームで万歩計 慶人
母の日や白寿の母に電話せむ 阿舟
髪を切りさらしたうなじ風薫る いずみ
鯨釣りの櫓舟漕ぎ手は我一人 阿舟
風薫る港の町は坂の町 視郎
配役はジャニーズばかり若葉冷え

とんこ

母の日は主役の態に割烹着
 一夜明け苦い辞令に風薫る
 風薫る水路に入りし棹しづく
 脚立釣りの解説ありて鱈料理
 祝傘寿鱈の天麩羅白ワイン
 母の日は墓に文句のありつたけ
 ミスキャストいやさうじやない夏来る

もとを
 光政
 ぼん太
 とんこう
 慶人
 視郎
 備後

眼帯の娘の肩や風薫る
 披露と言はれ二夜夏安居
 風薫る坂の上なる天主堂
 脚本も配役も良し新茶汲む
 海神の機嫌宜しく鱈釣るる
 懐妊の腹たくましや風薫る
 鱈で飲む貴奴気つぶの良かりけり
 息子から妻へと母の日のメール
 夏祭毎度変らぬ配役で
 届け出の濃すぎる朱肉風薫る
 母の日に配役されし母の役
 セルを着てキャスト揃ひし読み合はせ

とんこう
 視郎
 阿舟
 もとを
 康夫
 ぼん太
 阿舟
 もとを
 治美
 とんこう
 治美

【会員互選】

薫風に開きし乳房に汗青し
 仏壇の底の入れ歯や母の日遠し
 風薫る妻のランチと草野球
 妻留守の卓袱台茄子漬鱈添えて
 鱈釣りや掛かるは雌こちばかりなる
 幼子に朝の木洩れ日風薫る
 釣られたるいのちふるわせ鱈光る
 キヤスティングまた飽なり半夏雨

康夫
 とんこう
 光政
 康夫
 阿舟
 光政
 視郎
 ぼん太

母の日やあの娘と寝たのね別れなさい

風薫る七分で着く渡し舟
 風干の鱈を焙りて酒肴とす
 母の日の母のケイタイ鳴り止まず
 そげする音のみ生きて風薫る
 薫風やおもてなし上手人力車
 父と子の自転車練習風薫る
 薫風に鼻押し付ける出窓かな
 薫風に暫し任せよ花の午後
 朝風や鱈釣る人の宿酔

もとを
 康夫
 阿舟
 慶人
 備後
 もとを
 康夫
 阿舟
 慶人
 備後
 もとを

【選者吟】

薫風の通り抜けたる背ナト顔
 鱈釣や四方に展げし沖のこゑ
 母の日や何とはなしに時代劇
 母の日は父は配役なかりけり
 配役も外れし漢鱈を釣る
 薫風に山寺の鐘また聞こゆ
 母の日のなか／＼昏れぬ車窓かな

星野 高士

次回放送人句会

平成27年7月7日(火) 18時頃から
 赤坂・麦屋
 兼題：七夕、浴衣、紫蘇、三枚目(業界用語、道化も可)

新刊紹介



ドラマ化を機に横山秀夫の分厚い小説
 「64」(文芸春秋)を一気に読破した。6
 4とは昭和64年1月5日、天皇逝去で小淵
 官房長官は「平成」をテレビに向かつて掲
 げた日である。昭和が終わる新元号が始ま
 る日、親類宅にお年玉を貰いに行つた少女
 が忽然と姿を消し、脅迫電話が入った。警
 察の失態で迷宮に入り、空白の14年を経て、
 営利誘拐事件をまねた事件が起こった。と
 いつて647ページも費やして2つの誘拐
 事件をめぐる推理小説であるわけではない。
 日航機墜落事件の「クライマーズ・ハイ」
 同様、地方新聞が舞台だ。本庁と出先県警
 の駆け引き、キャリア出向組と警察学校か
 私大出のノンキャリア組との確執、記者ク
 ラブでふんぞり返る記者には常駐する経営
 の危機感にさいなまれる地元新聞対巨大新
 聞の出向支局記者をめぐるトク種争い、本
 社の意向と地元取材実感から抱く違和感
 「絵」を欲しがるテレビ報道局と事件のプ
 ロセスにこたわる現場との意識のズレなど
 など、事細かに、しかも社会的とか本質的
 ならという「〇〇的」というあいまいな言
 葉を1か所を除き一切使わない、たたみか
 けるようなダイナミックで現場感にみちた
 ハードボイルドな文体が魅力だ。ドラマ化

「ロクヨン」も特異な映像観で応えた。放
 送日時の関係で放送人グランプリにノミネ
 ートされなかったのが残念。



中山千夏の「芸能人の帽子」(講談社)も
 541ページのポリウムに「昭和」戦後
 史における「中山千夏」を描くことでゴシ
 ップやエピソードが踊り始める。塩漬けの
 戦後史を戻すと生気あふれた珍味の味がし、
 舌鼓を打った。(M)



「越境するメディアと東アジア」(勉誠出版)
 の編者玄武岩氏は会員で、数年前から
 日韓中テレビ制作者フォーラムに参加して
 きた。東アジアの越境的リージョナル放送
 に向けて、フォーラムを見つめ、横浜大会
 での「基町アパート」の問題をとりあげて
 いる。3月21日、上智大学で行われたシン
 ポジウム「日韓中テレビ制作者フォーラム
 は歴史問題をどう超えるか」の会場でこの
 本は販売されたが、発言した今野勉、渡辺
 浩平、鈴木弘貴、玄武岩の各氏がテーマに
 沿ってこの本に寄稿している。

【あ】相本芳彦 青木裕子 秋田完 秋田和典 秋山豊寛 雨宮望 新井和子【い】池田正之 石井彰 石井ふく子 石橋映里 石橋健司 石橋冠 磯智明 磯野恭子 磯村健二 市岡康子 市川哲夫 市村元 一色伸夫 伊藤雅浩 井上佳子 井上良介 今井義典 岩澤敏 岩瀬弥永子【う】上田洋一 上村忠 浮田周男 碓井広義 臼杵敬子 内山洋道 宇野昭【え】江川雄一 江口展之 榎本恒幸 遠藤利男 遠藤ふき子 遠藤雅充【お】大池雅光 大蔵雄之助 太多亮 太田昌宏 大西康司 大野秀樹 大原れいこ 岡弘道吉 緒方陽一 岡野真紀子 小川治 小河原正巳 沖野暁 荻野慶人 尾田晶子 織田晃之祐【か】加賀美幸子 各務孝 片岡敬司 勝部領樹 葛城哲郎 加藤滋紀 加藤節男 加藤拓 加藤義人 金澤宏次 金沢敏子 金子登起世 金平茂紀 加納孝夫 川平朝清 鎌内啓子 亀谷弘美 鴨下信一 川喜田尚 川口健一 河邑厚徳 河村正一【き】北川泰三 北川信 北川祐美香 北出晃 北林由孝 北村美憲 北村充史 木村成忠【く】楠美昌 工藤英博 久保志穂 隈部紀生 倉内均 倉澤治雄 訓覇圭 黒崎博 黒沢淳【こ】小池勝次郎 河野尚行 小玉滋彦 後藤和晃 小山紳人 近藤一男 近藤邦勝 近藤晋 今野勉【さ】斎藤秀夫 斎明寺以玖子 酒井美樹男 寒河江正 坂元良江 桜井均 佐々木彰 佐々木欽三 佐々木光政 笹山正勝 佐藤敦 佐野有利 澤田隆治 沢田隆三【し】重延浩 重村一 重盛政史 静永純一 志津木敬 四宮康雅 柴田陽一郎 嶋田親一 清水満 志村一隆 下崎寛 下重暁子 白井博【す】菅野高至 菅野嘉則 杉澤陽太郎 杉田成道 鈴木昭典 鈴木俊樹 鈴木典之 鈴木道明 鈴木嘉一 須磨章【せ】関佳史 せんぼんよしこ【そ】曾根英二【た】高島秀之 高田宏 高橋練 鷹森泉 竹中一夫 武本宏一 田澤正稔 田中昭男 田中秋夫 田中直人 田中則広 田原茂行 玉城朋彦【ち】崔銀姫【つ】塚本茂 辻本昌平 土屋敏男 つボイノリオ 露木茂 鶴橋康夫【て】寺島高幸【と】東城祐司 堂本暁子 戸田桂太 外崎宏司 豊田由紀子 豊原隆太郎【な】中尾幸男 中込卓也 中崎清栄 中島僚中 田美知子 永田浩三 永田俊和 長沼士朗 永野敏一 中村敦夫 中村克史 中村季恵 中村耕治 中村敏夫 中村美美子 中山和記 並木章【に】新村もとを 西憲彦 西村与志木 西ヶ谷秀夫 西川章 仁田豊文 仁藤雅夫 二宮文彦 丹羽美之【の】信井文夫【は】橋本深 林健嗣 林安二 原由美子 原田令嗣【ひ】玄武岩【ふ】藤井チズ子 藤久ミネ 藤村忠寿【へ】逸見京子【ほ】星田良子 星野輝一 堀川とんこう【ま】前川英樹 牧之瀬恵子 松尾羊一 松平定知 松前洋一 黛りんたろう【み】三上義智 水上毅 水野憲一 南謙 三原治 三村景一 三村千鶴 宮崎洋 宮川謙一 三宅恭次【む】村上光一 村上雅通 村上佑二 村田亨【も】木本敦子 諸橋毅一 門奈昌彦【や】八木康夫 矢島良彰 藪内広之 山鹿達也 山県昭彦 山崎隆保 山崎裕 山路家子 山田尚 山田良明 山根基世【よ】横山英治 吉澤保 吉田賢策 吉永春子 吉村豪介 吉村直樹【わ】若松央樹 和崎信哉 渡辺浩平 渡辺紘史

【賛助会員】 日本民間放送連盟 TBSメディア総合研究所 融合研究所 日本ケーブルテレビ連盟

編集後記

▼今報の名譽編集長・松尾羊一氏がギャラクシー賞の志賀信夫賞を受けることになりました(授賞式は6月2日)。「放送評論」に於ける松尾氏の盛名は半世紀に及び、その融通無碍の文化・文明批評性は放送「民俗学」の始祖ともいえる前人未踏の高みに達しているのは識者周知の実績。現に長期連載中の毎日新聞・木曜夕刊コラム「アレ・ビ指原殿」は、落語長屋の常連世界にやつしたユーモアと風刺横溢の「メタ批評」の絶品で、稀な博覧強記と深遠な洞察力に裏打ちされた軽妙洒落な表現力の妙は、向後も他の追従を許さない。ズバリ言えば、昨今「放送批評」はその指導性を失った感が強いが、唯一、松尾評論だけは文学性も含めて異彩が輝いている。志賀賞も6回目にしてようやく評論畑の正統の後継人脈に着目したわけで、賞の権威も高まったといえるのではないか。松尾「本人は江戸の通人隠居よろしく静に世俗を超える風情ですが、慶賀に値するニュースです。」▼この度、新任の「理事」に「選出頂きました。『理事』偉い人」だと思っております私にとつて、今回のお話は身に過ぎることと恐縮してはいたのですが、「理事」の上に「アシスタント」のひと言を入れましたら、ピッタリと自分の力量に当てはまる事に気づきました。諸先輩方の手足になれる立派な「アシスタント理事」を目指して頑張りたいと思っておりますので今後とも宜しくお願ひ致します(逸見京子)▼今号で今報は70



荻野慶人氏

山路家子氏

長沼士朗氏

武本宏一氏

号になりました。おめでたいようですが、発行部数の少ない出版物は3号とか50号とか節目の号数で廃刊になるシンクスがありますので、あまり騒ぎ立てないことにします。▼総会で理事の交代があり、荻野慶人、武本宏一、長沼士朗、山路家子、4人の方が退任になりました。4人の方が総会で退任の挨拶をなさったときの元氣な写真がありますので掲載します。(視)